

学長就任にあたって

2019 年 4 月 1 日

辰巳砂 昌弘

大阪府立大学の理念「高度研究型大学-世界に翔く地域の信頼拠点-」に相応しい教育、研究、社会貢献を推進するために、常に前向きに取り組んでいきたい。基本的に、歴代の学長が実施してきた取り組みを継承する。良いところを伸ばし、効果の薄いところは改める。100 年後に世界からその存在感を認められる大学を目指す。大学の成果は、輩出した人材が最重要であり、地道な教育、研究、社会貢献の積み重ねから、常に数多くの優れた人材を社会に送り出すことを目指す。

これまで「垣根のない大学でつながりを」というスローガンを掲げて「知」の創造拠点となることを目指してきた。常に新しいものにチャレンジする高い志や、進取の気風をもって、自分の周りに垣根をつくることなく、「つながり」をもとめて活動していきたい。学内、地域内、国内外での人的つながりを強くする努力を一層重ねることで、グローバルな環境の中でダイバーシティを重んじていく。

教学の場においてはもとより、職場においても、ダイバーシティを推進し、教職員が個人の強みを活かした仕事のできる環境づくりや、改革を常に意識して日常業務に取り組める職場環境を整備していきたい。また、留学生を含む在学生やその父兄、卒業生、さらには同窓会組織等との連携を図ることによって、本学の支持基盤を強固なものにしていきたい。

大学統合については、その道筋には様々な選択肢がある。どのような道筋をとっても、名実ともに日本一の公立大学を目指す。まずは、両大学の教職員が、この統合を大学発展の好機と捉え、相互理解を深めながら一丸となってプラン策定を図ること、それぞれの大学を目指している受験生が安心して受験できる新大学の姿を提示することが重要と考えている。

公立大学としての府大ブランド力の向上には、優れた人材の社会（地域、世界）への輩出に加えて、社会のニーズに応える世界最先端の優れた研究成果の発信、地方公共団体や地域と連携した知的活動の活性化が重要と考えている。今後実施したいと考えている具体的な取り組みは以下の通りである。

1. 教育

学士課程教育、博士課程教育を充実させ、質の向上を図る。本学の教育の内部質保証システムを確立し、国際レベルの教育体制を整備する。世界で活躍するグローバル人材を育成するための様々な方策を実施していく。教育に関する具体的な取り組みは以下の通りである。

- ・ 共通教育と生涯教育の強化
- ・ アクティブラーニングや参加型授業の普及・定着
- ・ 教育の質向上に関する研究会や研修会、模擬授業等の実施
- ・ リーディング大学院 SiMS プログラムの一般化
- ・ リベラルアーツの重要性に関する授業の導入検討
- ・ 教育貢献への顕彰導入など仕組みを整備
- ・ 留学生を中心とする異文化交流機会の増加

2. 研究

基礎研究のための十分な基盤整備、異分野融合研究の推進、先端的・創造的研究の促進等の課題に取り組み、研究環境の向上を図る。また、高度研究型大学としての大学のブランドを確立したい。具体的には、以下のような取り組みを実施したい。

- ・ 科研費をはじめとする外部資金獲得のためのサポート体制の強化
- ・ リファレンスモデル（OPU インキュベーションモデル、産学官金連携推進モデル）の継続
- ・ 大型研究設備の集約や老朽化対策
- ・ 学術的貢献に対するインセンティブの検討
- ・ 「環境・エネルギー」はじめ本学の強みを最大限に発揮できる研究分野の拠点化検討
（産学官金連携の目玉として位置づける。学長職にあっても国プロや大型科研費の代表者は継続し、最先端の研究者として、大学のブランドづくりに貢献したいと考えている。）

3. 社会貢献

地域における知の創造拠点として、府民、企業、行政にとって必要不可欠な大学となるため、研究成果を地域に還元してその発展に貢献するとともに、地域志向の人材育成を積極的に進める。一方で、世界に向けて強力に情報発信することで、一層のグローバル化を図る。具体的な方策は以下の通りである。

- ・ 「都市シンクタンク」「技術インキュベーション」の二つの機能を強化・充実するための方策の検討
- ・ 地方公共団体や地域と連携した知的活動の活性化
- ・ ものづくりイノベーション研究所や産官学共同研究会を活用した地域産業との連携
- ・ 本学が実績を上げてきた国際交流を中心とするグローバル化の一層の推進。
- ・ 英文ホームページの充実とその更新システムの確立、広報の世界基準化